

市内一のマンモス団体誕生

北秋田市老人クラブ連合会設立総会

北秋田市老人クラブ連合会の設立総会が9月1日、中央公民館で開かれ、旧4町の単位クラブの会長など約120人が参加して会則の制定や平成17年度事業計画及び予算などを承認しました。

総会では、主催者を代表して、合川寿クラブ連合会の金田正一郎会長が「単位クラブ数104、会員数5563人の団体となりました。これまでやってきた健康、友愛、奉仕は今後も共通の目標です」とあいさつし、来賓祝辞に続いて、会則の制定や平成17年度事業計画及び予算などの審議を行い、初代会長に佐藤喜美男さん（鷹巣町老人クラブ連合会長）が選出されました。



あいさつをする金田合川寿クラブ連合会長

いつまでもお元気で

北秋田市敬老式

北秋田市の敬老式が、9月6日の合川会場を皮切りに旧町ごとに開催されます。敬老式は75歳以上の方を案内対象として、市全体では6960人が該当します。

合川会場は、合川体育館で開催され、約500人が出席。市からのお祝品として、75歳以上の方には「敬老湯つこめぐり利用券」、米寿（88歳）の方には「長寿杖」、白寿（99歳）の方には「長寿布」が贈られました。また、同時に行われた金婚（結婚50周年）、ダイヤモンド婚（結婚60周年）のお祝いでは、記念額付きの「お祝い状」が贈られました。式典後には、あいかわ保育園の園児、合川民謡同好会の演芸が披露され、会場はおおいに盛り上がりました。



あいかわ保育園児が駒踊りを披露し、会場は、笑顔でいっぱい



複雑な家庭環境や障害を乗り越え、生きることの大切さを綴った「先に進む道」を寄贈する白川さん夫妻（左）

全国の点字図書館へ自著を寄贈

旧阿仁町出身・白川好光さん

阿仁荒瀬出身の白川好光さん（埼玉県三郷市在住）が8月11日、奥様の幸子さんと共に秋田市の県点字図書館を訪れ、自叙伝「先に進む道」の点字本を寄贈しました。

この本に関心を持った東京太田区のボランティアグループ「てんとう虫84」の方々の協力により全国の点字図書館に50冊を贈っているもので、今回は最後の1冊を直接、羽川館長に手渡しました。また、朗読テープも同じ全国の点字図書館に寄贈するため作成中で、今月には市の福祉施設にも寄贈していた、ということになっております。

この本についてのインタビューが9月28日早朝4時から45分間、NHKの「ラジオ深夜便」で全国放送される予定です。



「郷土芸能の普及などに役立ててください」

締め太鼓46個を寄贈

北秋田市鷹巣婦人団体連絡協議会

ふるさと太鼓などの活動も行っている北秋田市鷹巣婦人団体連絡協議会（中嶋喜代会長）が、活動で使っている締め太鼓46個を市に寄贈することになり、中嶋会長らが9月2日、市役所を訪れ「郷土芸能の伝承などに役立てて」と佐藤助役に目録を手渡しました。

同協議会では、20年ほど前から新しい創作文化や物産の振興に取り組み、昭和60年には同協議会などが主体となって「ふるさと踊りと餅つこまつり」がはじまっています。

太鼓は、このイベントで使われているもので、大太鼓の館で保管しています。利用を希望される場合は、市商工観光課（☎62-6639）までお問い合わせください。

中学3年生がすべてを仕切る

伝統行事「轟山（やまやま）」

大絵灯籠を子どもたちが引き練り歩く米内沢神社の伝統行事「轟山（やまやま）」が8月24日夜、にぎやかに繰り広げられました。この「轟山」は明治時代にはすでに行われていて、当時は「若勢入り」と称して大人への通過儀式の一つでした。現在は中学校3年生が資金集めから本郷会館に寝泊りしての灯籠制作、祭り執行と高校受験を控えた時期にもかかわらず、先輩たちの業績に負けまいと厳しい準備作業に追われました。

祭り本番は、太鼓と笛のはやしがり鳴り響き、大絵灯籠が巡行し、沿道の見物人も大勢で賑わいをみせ、行く夏を惜しむかのように伝統の行事を見送りました。



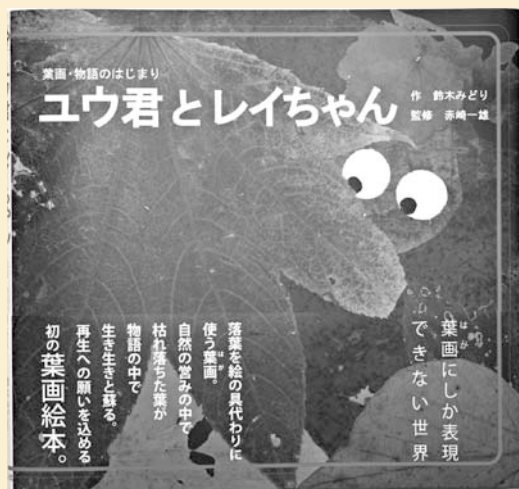
高さ4mの絵灯籠が街を巡行

落ち葉を使って絵本出版

旧森吉町出身・鈴木みどりさん

旧森吉町米内沢出身の鈴木みどりさん（千葉県君津市在住）がこのほど落ち葉を絵の具代わりにした絵本「ユウ君とレイちゃん」を春風社より出版しました。「葉画」と呼ばれる技法で、葉っぱの特徴を生かした味わいのある独特の世界を表現しています。

鈴木さん（旧姓・御所野）は旧森吉町米内沢に生まれ、米内沢高校を卒業し、現在は木更津総合高校で教鞭をとられています。絵本は、愛くるしい不思議な生き物が森に入り、フクロウやピエロと出会いながら冒険するという内容で、約50種類の落ち葉を使い、葉面にしか表現できない世界を作り出しています。



落ち葉が多彩な表情を見せる初の葉画絵本